

ヒトパピローマウイルス(子宮頸がん予防)ワクチン接種を受けるにあたっての説明書

ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンについては、接種後に持続的な激しい疼痛や運動障害が生じたと報告されたため、長期にわたり調査が行われ、その間、積極的な勧奨は差し控えてきました。しかし、国の検討部会において、最新の知見を踏まえ、改めてHPVワクチンの安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められました。これを受けて、接種の勧奨を再開することとなりました。

接種にあたっては、ワクチン接種の有効性とリスクを十分に理解した上で接種を受けてください。なお、ワクチンに関する情報は、厚生労働省の作成したリーフレットやホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。



厚生労働省HP
HPV感染症について



厚生労働省HP
HPVリーフレット等



川越市HP
HPVワクチンについて

(1) ヒトパピローマウイルス感染症について

HPVは、人にとって特殊なウイルスではなく、多くの人が感染し、そしてその一部が子宮頸がん等を発症します。200種類以上の遺伝子型があるHPVの中で、子宮頸がんの原因となる型は少なくとも15種類あることが分かっています。感染しても、多くの場合ウイルスは自然に検出されなくなりますが、一部が数年から十数年間をかけて進行し、前がん病変の状態を経て子宮頸がんを発症します。ワクチンで感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診によって前がん病変を早期発見し早期に治療することで、発症等の減少が期待できます。

(2) 予防接種の効果について

定期接種として接種できるワクチンはこれまで2種類でした。子宮頸がん患者から最も多く検出されるHPV16型及び18型に対する抗原を含んでいる2価ワクチン(サーバリックス)と、それに加えて尖圭コンジローマや再発性呼吸器乳頭腫の原因となる6型及び11型を含んでいる4価ワクチン(ガーダシル)です。

子宮頸がんの約50%~70%は、HPV16型及び18型感染が原因とされています。

令和5年4月からは、新たに9価ワクチン(シルガード9)が定期接種として接種できるようになります。4価ワクチンに加えてさらに5つの型のHPVに対する抗原を含んでおり、16型及び18型と合わせて子宮頸がんの原因の約90%をカバーできるとされています。

いずれのワクチンも、HPVの感染を防ぐことはできますが、既に感染したHPVを排除したり、子宮頸がんやその他の病変の進行を制御したりする作用はありません。つまり、HPVに感染する前に予防することが重要になります。HPVは性的接触により感染するため、年齢の若いうちに接種を済ませておくことで、高い予防効果が見込めます。

(3) 接種の受け方について

◇定期接種の対象年齢

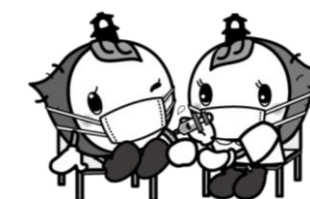
小学6年生~高校1年生相当の女子 【標準的な接種年齢は中学1年生】

※勧奨差し控え中に上記の年齢を超えてしまった方へのキャッチアップ接種については、裏面右ページをご覧ください。

◇接種の手順

- ①委託医療機関へ電話等で予約する。
- ②同封の予診票と母子健康手帳を持って委託医療機関へ行く。
- ③HPVワクチンの接種を受ける。
- ④適切な接種間隔を空けて、①~③を計3回行う。

※1回目の接種を受ける時点で15歳未満の方が、9価ワクチンで接種を受ける場合に限り、2回で終了する方法で接種を受けることができます。



川越市マスコットキャラクター ときも

★予診票の保護者自署欄について、接種を受ける本人が16歳以上の場合は、保護者ではなく本人が自署(サイン)をしてください。

◇ワクチンと接種間隔 [] 内が標準の接種間隔です。

○2価ワクチン(サーバリックス)

- 2回目：1回目接種から1か月以上の間隔において接種 [1回目接種から1か月後]
- 3回目：1回目接種から5か月以上かつ2回目接種から2か月半以上の間隔において接種 [1回目接種から6か月後]

○4価ワクチン(ガーダシル)、9価ワクチン(シルガード9)【3回接種の場合】

- 2回目：1回目接種から1か月以上の間隔において接種 [1回目接種から2か月後]
- 3回目：2回目接種から3か月以上の間隔において接種 [1回目接種から6か月後]

○9価ワクチン(シルガード9)【2回接種の場合(15歳未満のみ)】

- 2回目：1回目接種から5か月以上の間隔において接種 [1回目接種から6か月後]
- ※2回目を5か月より短い間隔で接種した場合、3回目の接種が必要です。

※接種の途中でワクチンの種類を変更することはできません。また、2種類以上のワクチンを接種することもできません。ただし、2価ワクチンまたは4価ワクチンで途中まで接種を受けた方が、残りの回数を9価ワクチンに変更することのみ可能です。希望がある場合、接種をする医師とよく相談して変更するか決めてください。

(4) 予防接種の副反応について

主な副反応としては、接種部位の疼痛、発赤、腫脹などの局所反応と、軽度の発熱、倦怠感などの全身反応があります。

重大な副反応としては、ショック、アナフィラキシーや、ギラン・バレー症候群、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、血小板減少性紫斑病などが報告されています。

ワクチン接種後に副反応が発生した場合は、直ちに、接種した医療機関の医師の診察を受けてください。

また、「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関」に相談することも可能です。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

《平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれの方へ》

積極的勧奨の差控えにより接種機会を逃した方のために、接種を受ける機会を確保するためのキャッチアップ接種を実施します。

◆対象者

生年月日が上記の期間内である女性で、HPVワクチンの接種を3回受け終えていない方

◆実施期間

令和7年3月31日まで

◆接種の受け方

接種の手順やワクチンの種類、接種間隔は表面の「(3) 接種の受け方について」と同様です。



厚生労働省HP
キャッチアップ接種について

【注意点】

これまでにHPVワクチンの接種を1回または2回受けたことがある方は、次の2点に注意して接種を受けてください

①これまでに接種を受けた回数を含めて合計3回までが対象となります。

前回の接種から期間が長く空いている場合でも、最初から接種し直すことはせず、残りの回数だけ接種を受けてください。

②これまでに接種を受けたものと同じ種類のワクチンで接種を受けてください。

ただし、9価ワクチンへの変更のみ可能です。

ワクチンの種類がわからない場合には、健康管理課までご相談ください。

がん検診も受けましょう

HPVワクチンの接種をしても、子宮がんを完全に防ぐことはできません。

子宮がんを早期に発見するためにも、がん検診を定期的に受けましょう。

川越市では、20歳以上の方は、2年度に1回、子宮がん検診を受けることができます。

事前に市に申し込み、発行された受診券を持って市内の委託医療機関で受診します。



川越市HP
子宮がん検診について



お申し込みはこちら

4月1日時点で20歳の方には、子宮頸がん検診を無料で受診できる「子宮頸がん検診無料クーポン」をお送りします。(5月末に発送)

詳しくは、川越市のホームページ、または

「健康づくりスケジュール」(3月下旬に全戸配布)をご覧ください。

(5) 予防接種による健康被害救済制度について

① 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく救済を受けることができます。

② 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

③ その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に救済を受けることができます。

※ 給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、健康管理課までご相談ください。

(6) 接種に当たっての注意

予防接種は体調の良いときに受けるのが原則です。病気の治療中であるなど、接種を受ける本人の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医に相談の上、接種するか否かを決めてください。また、診察時に正確な情報を接種医に伝えてください。

● 以下の状態の場合には、予防接種を受けることが出来ません。

- ① 明らかに発熱(通常37.5℃以上をさす)がある方
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した方

● 以下の状態の場合には、接種前に医師とよく相談しなければなりません。

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状が出たことがある方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアレルギーを起こすおそれのある方
- ⑥ 妊娠中または妊娠の可能性がある方
(HPVワクチンの場合、基本的に妊娠中には接種は行いません)

(7) 接種を受けた後の注意

- 急な副反応が生じることがありますので、接種後30分程度は医療機関に留まり、座って様子を見てください。ワクチンを受けることに対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります
- 接種当日は安静を保って、はげしい運動は控えてください。
- 接種当日の入浴は差し支えありません。
- 予防接種をした部位は清潔に保ち、こすらないように気をつけてください。
- 予防接種後28日間は緊急性のない場合、抜歯、扁桃腺手術、ヘルニア手術等は避けてください。
- 接種の途中で妊娠した場合、または妊娠の可能性のある場合は医師とよくご相談ください。